

KENWOODのドライブレコーダー、DRV-MR740をインプレッション!

天 網 恢 恢 疎 漏 テンモウカイカイソニシテモラサズ

昨今なにかと話題のドライブレコーダー。そこで本誌編集部でもケンウッドの最新モデルを社用車に装着。実際の使い心地をチェックしてみた!

文/日越翔太(ナビカーズ)



他車を見つめるふたつの目で、自らの運転も見つめ直す

ケンウッドの新作ドライブレコーダーを試せる機会を得たので、さっそく仕事の相棒であるルノー・カンゲーに装着することにした。

初めてのドラレコ取り付けだったが、セッティングに要した時間は10分ほど。配線を隠すとなると当然もっと時間はかかると思うので、その場合はショップに対応してもらおうといいかもしれない。ただ、カンゲーの場合はルームミラーの付け根にオートワイパーのセンサーが付いているので、取り付け位置をあれこれ検討することに。ありがたいことにカメラそのものがフルハイビジョンの2カメラタイプながらフロントカメラはかなり小さいので(一般的なカードほど)、そう苦労しないはず。今回はセンサー部分が写り込んでしまったが、

走ってみると、前後の状況を記録してくれるというのが、ここまで頼もしいものかと驚いた。もちろん、初めてドラレコが付いたクルマに乗ったわけではないが、リアにも目がある、ただそれだけなのに見守られ感がすごい。そしてそれは逆に、自らの運転も見られているということであり、改めて身が引き締まる思いがするのも面白い。まさに天網恢恢疎にして漏らさず。お天道さまは悪事を見逃さないということか。話に聞いて心配していた地デジやAMラジオへの電波干渉もなく(ノイズ低減設計がされているようだ)、まさにドライバーの邪魔をすることなく、陰ながら安全を見守ってくれるニクイやつ。前後ふたつの目を持つ何より頼もしいボディガードがここにいた。

取り付けしたのは
こちら



ルノー・カンゲー



いわゆる「あおり運転」をされた場合に、身の潔白を証明してくれる後方カメラ。走行中の様子はもちろんだが、別売の車載用電源ケーブルを使うことで、最長24時間の駐車監視録画が可能なので、駐車中のトラブルやセキュリティ対策にも活用できる。カメラそのものがコンパクトなため、悪目立ちしないのもうれしい。

REAR



上下左右すべてに視野角が広く、肉眼と変わらない情報量を記録できる。また、フロント、リアともにF1.8の明るいレンズを採用しているので、昼間はもちろん、トンネルの中や夜間でもくっきりした画質で録画可能。加えて、トンネルの出入り口などの明暗差が激しいシーンでも明瞭な映像を残せるHDR（ハイダイナミックレンジ）を搭載。ほか、GPSやLED信号機にも対応するなど、コンパクトなボディからは想像できないほど多機能だ。

FRONT

前方はもちろん、後方もしっかり記録！

DRV-MR740

フロント、リア用のドライブレコーダーで、常時録画、イベント記録、手動録画、静止画記録が可能。前後ともフルHDカメラを採用しており、万が一の際にも周囲のクルマのナンバープレートも明瞭に記録可。実勢価格は28,000円前後（編集部調べ）。

カメラ●（メインユニット、2ndカメラともに）画素数／210万画素、最大記録画角／水平100°、垂直52°、対角11°、最大解像度／1920×1080、フレームレート／27.5fps
機能●液晶サイズ／2.7型、対応メディア／microSDHCカード（16GB～32GB）
サイズ、重量●（メイン）W87.9mm×H50.6mm×D31.9mm、106g／（2nd）W44.0mm×H40.4mm×D33.0mm、35g



フロント用



リア用

動画処理の負担が大きく、熱対策などでボディが大きくなりがちな2カメラドラレコだが、DRV-MR740は本体サイズの小型化に成功。運転中のドライバーの視界を妨げることはない。品の良いデザインもケンウッドならではの。